

中村欣一郎市長の

山椒は小粒でも…



Vol.2

旅の楽しさはどこに？



皆さんはパーク&シップラ
イドつてご存知でしょうか？
サンアリーナに自家用車をと
め、バスに乗り換えて内宮へ
向かう。これはパーク&バス
ライド。

これの鳥羽方式がパーク
(駐車して)&シッパ(船
に)ライド(乗る)。ひだま
り前の駐車場に車を止め、堤
防まで歩き、岸壁からは遊覧
船でミキモト真珠島の橋のた
もとを船で送り迎えています。

ゴールデンウィークとお盆
の、駅前の駐車場の混雑が予
想される時期に運航していま
す。

毎年、スタッフの激励を兼
ねて利用者の多寡を見に顔出
しをしています。今年は一
度乗船してみても乗船者の会話
にも耳を傾けてみようと思
い、観光客に紛れ込んで往復
してみました。

真珠島に向かって、右手は
かんぽの建物が山の上に立つ

安久志の家並み、左手は大き
な運搬船や定期船が係留され
た赤崎・中之郷岸壁。後方は
というときさつき乗船した大明
の干拓堤防が見えるだけ。

私にとって

は見慣れた、
なんの観光色
もない鳥羽の
日常の風景で
す。



しかし観光
客は違いまし
た。船に乗り込むやいなや、
我先にと二階の展望席を目指
します。船が動き出すと、あ
ちこち指さし、キョロキ
ョロ、キャーキャー。

特に目を見張る島や青い海
が見えたわけでもないのに、
老若男女一様に楽し気な様子
に満ちあふれていました。

天気良かったこともある
のでしょうか。横で眺めてい
て、何か誇らしいような不思
議な気分を味わいました。
あらためて、「海」と「船」が

持つ吸引力に気づかされまし
た。

そういえば近鉄電車で鳥羽
へ入ってくるときにたびたび
見かけます。ずっと山の中を
走ってきて、商船学校のところ
で車窓に池ノ浦が広がった
時の旅行客の喜びようです。

おしゃべりに夢中になって
いても、一瞬の間を置いて上
がる歓声。

JRでも同じです。ビーチ
ランド(50才以下の人にはわ
からないかも)のあったあた
りから堅神にかけてのシーサ
イドライン。ここは入り江の
美しさにプラス、アオサ養殖
の海苔ソダの
美しさで沖合
に点在する飛
島が加味され
ます。



この区間を
乗るためにわ
ざわざ伊勢市駅でJRに乗り
換えて鳥羽入りする旅行者も
いるそうです。

身近にあり過ぎて、「こん
なもの、まさか」と思いが
ちですが、まだまだトキメキ
の種はありそうです。

何せ「鳥羽の売りは海だ」
と常々言っているのですか
ら。



Vol.160

教育委員会生涯学習課 ☎ 1268

小さな人権

全国中学生人権作文

福島県中学一年生(抜粋)

『私が五歳の頃の話です。』

スーパールのレジで初めて会
計をすることになってしまっ
た時のことです。大人ばかり
の列に並んでようやく自分の
番が来たときでした。私の後
ろに並んでいた男性が自分を
抜かして自分のカゴをレジ台
においたのです。私は慌てて
自分の番だと主張しようと、
「あの」と言いました。しか
し、レジの人はそのままその
男性の会計をしようとしてしま
した。私はもう一度「あの」と
声を出しました。私の存在に
気づいたらしいレジの人は
「ほらそこにいると危ない
よ、早くお母さんのところに
行つてね。」と言つたのです。
なんだか悔しくなつて泣きそ
うになったその時、「お客様

の順番を間違えています。」
という声が聞こえ、男の人に
向かって、「すみません、お
待たせして申し訳ありません
が、こちらのお客様を先にさ
せていただいてよろしいでし
ょうか。」そして、五歳の私
に「失礼な対応をして、誠
に申し訳ございませんでし
た。」と自ら深々と頭を下げ
てくれたのです。あの時、あ
のマネージャーさんは、五歳
の私のことを、年齢や性別に
関係なく、一人のお客、一人
の人間として扱ってくれたの
だと思えます。考えると、店
のお客さんの前で従業員を叱
る、というのは普通、避けた
いことに違いありません。で
も、それよりも、私の人権を
大切にしてくれた。そのこと
を、私は今も事あるごとに思
い出しています。五歳のある
日、私があのマネージャーさ
んにどんなに救われたか、そ
の日のことがどんなに心に刻
まれたか。私は小さな子ども
たちの尊厳と権利の守れる大
人になりたい、と思っていま
す。」

子どもの頃の体験はその後
の生き方に大きな影響を与え
ます。今、大人の人権感覚が
問われています。